コウモリ目ヒナコウモリ科

クロホオヒゲコウモリ

青森県：A
環境庁：絶滅危惧ⅠB類

向山満撮影

翼を広げた長さが約20㎝、全長が約7㎝、体重が4gほどの小さいコウモリです。密生している黒い毛の間に銀色の長毛が目立つのでとても美しく見えます。

これまでに、田子町、天間林村、十和田湖町、岩崎村の4か所しか見つかっていません。いずれも広葉樹からなる深い森がある場所で、全国的にもたいへん珍しい種類です。大木の樹洞を休息や繁殖、冬眠に利用している森林性と考えられますが、詳しい生態は不明です。

向　山

コウモリ目ヒナコウモリ科

ホンドノレンコウモリ

青森県：A
環境庁：絶滅危惧ⅠB類

向山満撮影

翼を広げた長さが約24㎝、全長が約9㎝、体重が7gほどの小さいコウモリです。全国的にも希少種で繁殖場所が分かっているところは青森県以外では九州に1か所あるだけなので、本県の繁殖集団はとても貴重です。

六戸町の熊野神社の建物に毎年100頭ほどの雌が集まって出産と子育てを続けています。しかし、どこで冬眠しているかについては分かっていません。コウモリ類の中では比較的暗くなってから飛び出す種類です。

向　山

コウモリ目ヒナコウモリ科

モリアブラコウモリ

青森県：A
環境庁絶滅危惧ⅠB類

向山満撮影

翼を広げた長さが約22㎝、全長が約8㎝、体重が7gほどの小さいコウモリです。全国的にも希少種で、広大な天然林でだけ見つかっています。外見上は市街地を飛び回っているアブラコウモリに似ていますが、本種の生息場所は深い森の中に限られます。

典型的な森林性コウモリと考えられますが、その生態は不明です。本県からは三戸町、下北地方、白神山地の3か所で確認されているだけのたいへん珍しい種類です。

向　山

コウモリ目ヒナコウモリ科

クロオオアブラコウモリ

青森県：D
環境庁：情報不足

向山満撮影

弘前市や青森市の市街地の中を飛んでいるアブラコウモリとよく似ていますが、いくぶん体が大きいことが特徴です。

長い間、青森市滝沢で捕まった個体が本州唯一の記録でしたが、最近になって、黒石高校の廊下で死んでいたコウモリが本種であることが確かめられました。本県以外では札幌市で捕まった記録があるだけのたいへん珍しい種類です。本県では2回も確認されているので、今後の詳しい調査実施が望まれます。

向　山

コウモリ目ヒナコウモリ科

コヤマコウモリ

青森県：A
環境庁：絶滅危惧ⅠB類

向山満撮影

翼を広げた長さが約31㎝、全長が約11㎝、体重が約20gほどのコウモリです。全国的にも希少種で、広大な天然林でないと見つかっていません。本県では新郷村迷ヶ岱のブナ林で1頭が確認されただけの珍しいコウモリです。

森林性コウモリで、樹洞をねぐらとしていると考えられますが詳しい生態は不明です。生存に欠かせない樹洞のある老大木が少なくなっていますので、コウモリ用巣箱の開発が急がれます。

向　山

コウモリ目ヒナコウモリ科

ヤマコウモリ

青森県：B
環境庁：絶滅危惧Ⅱ類

向山満撮影

翼を広げた長さが約40㎝、全長が約14㎝、体重が40gほどで、青森県に生息するコウモリ類の中では最大種です。明るい茶色の長い体毛で被われていて美しく見えます。

白神山地の中心部でクマゲラが掘った穴を利用していたり、また、一方では弘前公園や八戸市長者山のような市街地の中心部にも生息しています。しかし、休息や繁殖場所として大きな樹洞を必要とするので、老大木の枯死や伐採によって各地で減少しています。

向　山

コウモリ目ヒナコウモリ科

ヒナコウモリ

青森県：B
環境庁：絶滅危惧II類

向山満撮影

翼を広げた長さが約30cm。全長が約10cm、体重が20gほどの中型のコウモリです。もともとは樹洞を利用していたと考えられていますが、現在では神社や民家、学校や橋などの建造物の隙間を利用しています。

本県では比較的多くの場所にいますが全国的には珍しいコウモリです。出産子育てのために雌親だけで大群をつくる習性があって、天間林村天間舘神社のコウモリ小舎は4000頭以上の雌親が集まる日本一の場所です。

向　山

コウモリ目ヒナコウモリ科

ニホンウサギコウモリ

青森県：B
環境庁：絶滅危惧II類

向山満撮影

翼を広げた長さが約27cm、全長が約9cm、体重が8gほどの小さいコウモリです。頭より大きな耳を持っているので種類を間違える心配がないコウモリです。全国的にも希少種とされていて、詳しい生態は不明です。

本来は樹洞をねぐらとする森林性コウモリと考えられますが家屋などの建造物も利用します。七戸町にある奥羽種畜牧場の建物には毎年繁殖集団が観察されています。県内でほかに繁殖確認はなく、全国的にも貴重です。

向　山

コウモリ目ヒナコウモリ科

ニホンユビナガコウモリ

青森県：C
環境庁：該当なし

向山満撮影

翼を広げた長さが約32㎝、全長が約11㎝、体重が13gほどのコウモリです。黒っぽい焦げ茶色の体色で、典型的な高速長距離飛翔タイプの狭くて長い翼を持っています。岩崎村、深浦町、西目屋村の洞穴に生息しているだけで、標識バンドを付けた調査では秋田県との往来が確認されています。

西目屋村の洞穴は津軽ダム建設でなくなりますので、新しい洞穴を掘って保護する計画がすすんでいます。成功すると世界初の快挙となります。

向　山

コウモリ目ヒナコウモリ科

ニホンコテングコウモリ

青森県：B
環境庁：絶滅危惧Ⅱ類

向山満撮影

翼を広げた長さが約21㎝、全長が約7㎝、体重が5gほどの小さいコウモリです。小さい体に明るい茶色の長い毛が密生している毛深いコウモリです。鼻の穴が管状に長く突き出ているのが特徴です。

青森県内に広く分布していますが、集団で見つかることがありません。森林性コウモリと考えられていますが、集落近くの建物や果樹園からも見つかっています。秋には枯れ葉の間で休息していたり、その生活様式はほとんど分かっていません。

向　山

コウモリ目ヒナコウモリ科

ニホンテングコウモリ

青森県：B
環境庁：絶滅危惧II類

向山満撮影

翼を広げた長さが約30㎝、全長が約10㎝、体重が12gほどのコウモリです。灰褐色の毛で被われていて、さらに、長い銀色の毛が混じっているのでとても美しく見えます。

洞穴内で冬眠しますが、三戸地方の長期冬眠個体数調査によると明らかに減少しています。コウモリは空を飛びながらえさの昆虫を探すのですが、本種は最近になって地上で何回か捕まっています。もしかすると、地上採餌の可能性もある、謎に満ちた種類でもあります。

向　山

サル目オナガザル科

ホンドザル

青森県：ＬＰ（下北半島）
環境庁：絶滅のおそれのある地域個体群（下北半島）

向山満撮影

青森県に分布するホンドザル（日本固有のサルであるニホンザルの亜種）は、下北半島、津軽半島、白神山地とこれに連なる山系の3つの地域に分かれて生活しています。

体全体が茶褐色ないしは灰褐色の体毛で被われ、顔と尻だけは毛が薄いため赤っぽい色をしています。下北半島の集団は世界最北端のサルとして国の天然記念物に指定され、保護されています。最近は脇野沢村や西目屋村、鰺ヶ沢町などでの猿害やタイワンザルとの交雑の問題などで注目されています。

小　原

ネズミ目リス科

ホンドモモンガ

青森県：C
環境庁：該当なし

向山満撮影

本州・四国・九州の低山帯から亜高山帯の森林にすむ日本固有のリス科の動物です。形はニッコウムササビとよく似ていますが、ひとまわり小さく、平べったい尾が特徴です。ニッコウムササビと同様夜行性で目が大きく、飛膜を広げ木々の間を滑空します。

県内では山地に広く分布していますが、全県的に減少傾向にあります。特に県東部や津軽地方南部の山地周辺では生息情報が少なくなっているので、これらの地域での積極的な森林の育成保全が望まれます。

小　原

ネズミ目リス科

ニッコウムササビ

青森県：C
環境庁：該当なし

向山満撮影

ムササビは本州・四国・九州に分布する日本固有のリス科の動物です。山地森林に限らず平地の社寺林などにもすみ、夜行性で目が大きく、飛膜を使って木から木へと滑空するなど、形も生活習性もモモンガと良く似ています。

青森県産のものは亜種ニッコウムササビとされ、県内では全県的に分布しています。ホンドモモンガと同様減少傾向にあり、特に下北半島の東南地域や津軽地方の平地部の林地などでは生息情報が少なくなっています。

小　原

ネズミ目ヤマネ科

ヤマネ

青森県：C
環境庁：準絶滅危惧

向山満撮影

本州・九州・四国・隠岐島後にのみ分布する1属1種の日本固有種で、国の天然記念物に指定されています。尾を除く体の長さは7～8㎝で、背面中央に走る黒毛の線が特徴です。

低山帯から亜高山帯の森林にすみ、主に樹上で生活し、樹洞や樹皮のすき間などにコケや細かな樹皮で丸い巣を作ります。冬になるとピンポン玉のように体を丸くして冬眠します。県内では全県的に減少傾向にあり、その生息環境である森林の育成保全が望まれます。

小　原

ネコ目クマ科

ニホンツキノワグマ

青森県：ＬＰ（下北半島）
環境庁：絶滅のおそれのある地域個体群（下北半島）

宮川圭司撮影

本州、四国および九州の一部に分布している大型の哺乳類で、低山帯から亜高山帯の森林にすんでいます。胸にある三日月型の白い斑紋が特徴ですが、個体により大きさが異なり、無紋の個体もいます。

県内では下北半島、岩木山および白神山地とこれに連なる山系にすんでいます。昔は津軽山地にもすんでいましたが、1930年代に絶滅してしまいました。下北半島の集団は孤立した集団となっており、この地域での絶滅が心配されています。

小　原

ネコ目イタチ科

ニホンイイズナ

青森県：ＬＰ（南部地方）
環境庁：準絶滅危惧

向山満撮影

イイズナはユーラシア大陸の北部全域に広く分布しているイタチ科の動物です。日本産のものはその亜種とされ、北海道と東北北部に分布しています。体長は尾を含め20㎝前後で、背面茶褐色、腹面白色のスマートな体型はホンドオコジョとよく似ていますが、尾が短く、冬になると尾の先端部も含め全身真っ白に毛換りします。

県内での捕獲記録は津軽地方では比較的多いのですが、特に南部地方では過去30年間捕獲の記録がなく、この地域での絶滅が心配されています。

小　原

ネコ目イタチ科

ホンドオコジョ

青森県：C
環境庁：準絶滅危惧

久末正明撮影

短脚胴長のスマートな体型をもち、夏毛は背面が濃い褐色、腹面が白色で、ニホンイイズナとよく似ていますが、尾がニホンイイズナより2倍半程長く、その先端1/3位が黒毛になっているので容易に区別できます。冬になると、尾の先端部の黒毛を残し全身真っ白に毛換りします。

県内では主に八甲田十和田山地や白神山地、岩木山などの山岳地帯にすんでいますが、津軽山地や恐山山地、さらには浪岡町や黒石市板留などの低山帯でも記録があります。

小　原

②鳥類

《概要》

世界に生息する鳥類の種類は約8,500種です。日本の種類数は約550種で、この内青森県では約320種が記録されています。これは日本で見られる鳥類の、半数以上が青森県で観察されたことになります。

多種類の鳥類が見られるのは、いくつかの要因が考えられます。

まず、『位置的要因』が考えられます。鳥類の水平分布を見てみると日本は旧北区にあります。北海道と本県は同じ旧北区に属しているのですが、津軽海峡をはさんで鳥類分布が多少違っています。

北海道には本州で見られないヤマゲラ・コアカゲラ・エゾミユビゲラ・シマフクロウ・シマアオジ・エゾセンニュウ・エゾライチョウが生息していますが、本州にいるオオセッカ・ヤマドリ・キジ・アオゲラ・ライチョウは生息していません。しかし、おもに北海道で繁殖するベニマシコやシマアオジが本県で営巣した記録があり、北海道の留鳥シマエナガなどの観察報告もあります。北海道で生息の多いクマゲラも本県に少数生息しています。これらは青森県が北海道に近く、気象や自然環境が似ているためと考えられます。

次に『地形的要因』があります。青森県は、北に津軽海峡、西に日本海、東に太平洋、そして、津軽・下北両半島に囲まれた陸奥湾があります。長い海岸線にはたくさんの岩礁や小さな島々があり、ウミネコやオオセグロカモメなどが繁殖します。冬には、多くの海鳥類が越冬しています。暖流域に繁殖するクロサギが西海岸にいますし、親潮が流れこむ下北半島尻屋崎付近の島にはコシジロウミツバメやケイマフリが繁殖しています。

白神山地や岩木山などの山岳地帯では、イヌワシ・クマタカ・クマゲラなどの生息や繁殖が確認されていますし、いくつかの渓流ではシノリガモの繁殖も確認されています。一方、屏風山地区・廻堰（まわりぜき）大溜池・砂沢溜池など津軽地方の湖沼群や岩木川下流地域の湿地地帯、上北地方の小川原湖などの湖沼群や湿原にはオオセッカ・カンムリカイツブリ・オオジュリン・コジュリン・ヨシゴイ・ケリなど貴重な鳥類が生息しています。これらの湖沼地帯・河口干潟・湿原などは、本県を経由しているシギ・チドリなどの旅鳥がえさをとったり、休息したりする場所にもなっています。

もう一つは『季節的要因』があります。鳥は『渡り』という鳥特有の行動をします。夏に飛来して繁殖する夏鳥、冬に飛来して越冬する冬鳥、春・秋に飛来してえさをとったり休息する旅鳥などです。一年中同じ場所に生息する留鳥にしても、季節によっては、えさなどの関係で生活する場所を変えます。したがって、ほとんどの鳥は広い意味では『渡り鳥』といってもよいでしょう。本県では、オオハクチョウやコクガン、いろいろな種類のカモが越冬します。オオセッカ・コジュリンなど貴重な鳥類も春に飛来して夏に繁殖しています。シ